

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇「下水道展'13 東京」開催、塩化ビニル管・継手協会出展

■ [随想](#)

◇ベナン共和国旅行記（5）－Abomey－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇「下水道展'13 東京」開催、塩化ビニル管・継手協会出展

世界に誇る技術の祭典と冠し「下水道展'13 東京」（主催：（公社）日本下水道協会。後援 国土交通省、環境省、経済産業省、文部科学省、東京都ほか）が、2013年7月30日～8月2日の4日間、有明の「東京ビッグサイト 東4・5・6ホール」で開催されました。

同展は、下水道に関する設計・測量、建設、管路資器材、下水処理・維持管理、測定技術などの最新技術、機器等を展示紹介するもので、東京では隔年で開催されています。

展示場は、大きく6つのゾーン、下水処理；91、管路資器材；64、維持管理；52、建設；87、設計・測量；9、その他；26（数字は社・団体数、合計329社・団体）に分けられており、塩化ビニル管・継手協会は、管路資器材ゾーンにて、インフラを支える塩ビ管、リサイクル受入場に実際に持込まれた使用済み塩ビ管及びリサイクル製品、敷設後30年を経過した下水道用塩ビ管の掘上げ品（写真①）、及び自在継手・塩ビ製可とうマンホール継手を使用した塩ビ耐震配管モデル（写真②）等がわかりやすく展示されていました。また、今回は、一定時間毎ではありますが、専属ナレーションによる展示品の説明が企画され、塩ビ管の耐震性や長寿命性、マテリアルリサイクルについて、一層の理解が得られたのではないかと思います。

また、屋外展示場では、下水道管路の更生・修繕技術施行展があり、デモ施行が実施されていました。様々な管更生法・技術が提案されていますが、開削せず、場合により下水使用のまま老朽管を更生できる、硬質塩ビを用いたSPR工法（写真③）、EX・ダンビー工法（写真④：EX工法）のデモでは、炎天下にもかかわらず、大勢の方が熱心に見学されておられました。



① インフラを支える塩ビ管 他



② 塩ビ耐震配管モデル



③ SPR 工法



④ EX 工法

会場で配布されていた「月刊下水道 増刊号」の記事によれば、「東京都では、法的耐用年数の 50 年を超えた下水道管の大半が都心部に集中し、早急な老朽化対策が求められるなか、開削を必要としない更生工法による工事は、コストを大きく増やすことなく、再構築のスピードアップが図られると期待されており、これまで 18 年間で 4600ha 整備してきた都心処理区について今後 3 年間でさらに 2100ha を整備する計画となっている。また、下水道に起因する道路陥没の予防保全対策として、陶管の取付管を衝撃に強い硬質塩ビ管に取り替える取組が進められてきており、平成 27 年までの 3 カ年で再構築や重点 50 地区を含めて 12 万ヶ所について塩ビ化を完了させる。これは前計画より 4 割スピードアップし、取付管の塩ビ化率を 36% まで引き上げられる」とのことです。

塩ビ管がますます社会インフラに貢献していけること、また、こうした事実が広く認知されるようになることを期待しています。

■ 随想

◇ベナン共和国旅行記（5）－Abomey－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

今日は朝からコトヌー近郊にある Abomey-calavi という街まで、奴隷にされるのを恐れて水上生活をはじめ、現在も水上生活を続けているアイゾ人の集落を見に行くことにしました。コトヌー市内にある乗合タクシー乗り場でタクシーに乗り 25 分程度で到着です。乗合タクシー乗り場に到着すると、あまりにも多くのタクシーが止まっており、どのタクシーが Abomey-calavi に行くのか、さっぱり分かりません。

こういう時は大声で行先を叫ぶのが一番。「ア・ボ・メ～」と大声で叫んでみました。すると、必ず現れる親切な人が、こっちの乗合タクシーが Abomey まで行くよ、と教えてくれました。

ベナンに限らず、長距離の移動では乗合タクシーが一般的です。バスもあるのですが、いろいろなところで停車するので時間がかかるため、早く移動をするのなら乗合タクシーが一番。目的地まで一直線、しかも、1 日にできるだけたくさん目的地との間を往復するかによってその日の収入が決まる運転手さんですから、ほとんどが制限速度無視の“カミカゼ”運転手です。

乗合タクシーは普通乗用車の場合、助手席に 2 人、後部座席に 4 人お客さんが乗ると出発で、時刻表はありません逆に言えば、満席にならなければ、いつまでも出発しません。

料金は目的地ごとに決まっているので、ぼられることはありません。

アフリカの大柄なおじさん、おばさんが運転手も含め、1500cc クラスの小型車に7名も乗るので、車内はぎゅうぎゅうです。最近、メタボでアフリカのおじさんと同じような体型になったため、運転手さんと交渉し、倍額払い（日本の価格にすれば激安なので）、助手席に1人でゆったり乗っています。

さて、Abomey 行の乗合タクシーが出発しました。予め地図で調べていた方向にちゃんと走っています。走っています。走っています。

あれ、出発してから40分近く経つのに着かない (;^_^A アセアセ…

運転手さんに「この車 Abomey に行くんだよね？」と聞くと、何をいまさらという顔をして「そうだよ」と答える。

まあいいやとそのまま走っています。走っています。走っています。

周りの建物の形が変わり、明らかに違う部族のエリアに入ったようです。時計を見たら出発から2時間経過。さすがに乗り間違えたことに気が付きました。

車内では、後部座席のお客さんが途中の村で買った茹でトウモロコシやピーナツを分けてくれ、長距離旅行でありがちな和気藹々とした雰囲気。

こうなれば、行くところまで行ってしまおうと決心しました。

ベナン、道路事情が悪いと聞いていましたが、田舎の道は本当に悪い。トラックは道が悪い上に過積載なので、あちこちで故障して止まっています。舗装もされていないのか、いないのかよく分からない状況で、陥没などを避けるため反対車線を走ってくる車が絶えません。それも、双方、“カミカゼ” タクシーの場合、正面衝突をするギリギリまで回避しようとしません。

余談ですが、ベナンでは「ぶつかる！」というのを「タイラ！」と言うようです。対向車とぶつかりそうになるたびに、車内では「タイラ！」という叫び声が上がります (^O^)

約4時間後、Abomey に到着しました。

ここはどこ???

せっかく来たので、取り敢えず街(村)歩き。なかなか歴史のある、由緒正しそうな街(村)です。何だかよく分からないまま、2時間ほどすごし、コトヌー行の乗合タクシーに乗り込みました。コトヌーに戻る途中、雲行きが怪しくなり、雨が降り出しました。助手席側の窓を閉めようとする、窓ガラスがない。。

雨はどんどんひどくなって来ます。後部座席の女性もびしょ濡れです。さすがに耐えかねたのか、スカーフを外し、窓ガラスの代わりに窓に貼ろうということになりました。始めのうちはよかったのですが、雨は土砂降りに。道路は川になっています。さすがにこれではまずいと運転手さんは思ったのでしょう。農家でビニールシートを買ってきました（どうせ買うんなら、もっと早く買えよ）。



Abomey で出会った女の子

川になり、路面の状況が全く分からなくなった道を、乗合タクシーは疾走します。道路の陥没も分からないため、たまに突入し、車体は大きくバウンドします。

2時間ほどして、やっと雨が上がってきましたが、周りにはもう夜。コトヌー市内を除き、街灯などはありません。真っ暗な中、運転手さんはヘッドライトを点けません。前方はさっぱり見えませんが、運転手さんには見えているようです。

かなりたってから、どの車もやっとヘッドライトを点け始めました。ベナンでは対向車が居ても、ヘッドライトはハイビームで点灯します。ここで、運転手さんがなかなかヘッドライトを点灯しなかったわけが分かりました。対向車のハイビームのヘッドライトが眩しすぎて、余計に前が見えない。

日本でも一部の府県で、対向車が居ても、ヘッドライトはハイビームでという指導が始まったようですが、考えた方がいいかもしれません。

体の窓側だった方だけびしょ濡れのまま、コトヌーへ戻ってきました。

この日行った Abomey ですか。

首都のコトヌーから約 144Km 離れた（道が悪いので“カミカゼ”タクシーでも4時間かかります）、かつてアボメー王朝の都があった場所でユネスコの世界遺産でした＼(^O^)/

ベナンには Abomey-calavi と Abomey-Zou があり、Abomey-Zou（世界遺産に指定されている方）が一般的に Abomey と呼ばれているようです。

勉強になりました <m(__)m>

（つづく）

次回は、（6）ーベナンいろいろーです。

⇒ [バックナンバー](#)

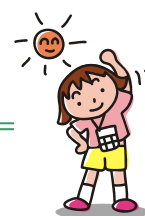
■ 編集後記

今週のトピックス記事にもある「下水道展'13」を見学しました。非常時の対策として管路資器材の数社からトイレにかかわる塩ビ製品、システムが提案されていました。災害時の排水機能確保のための「切替マス」、マンホールトイレとその処理システム、防災貯留型仮設トイレシステムなどです。既に、多くの小学校の校庭に設置されているシステムもあり、また、マンホールトイレは東日本震災でも役立ったとのこと。いろいろなところで塩ビが役立っているなど実感しました。

次週はメルマガも夏休みを取り、次号は22日に配信させていただきます。（鈴蘭）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp